河内長野市遺跡調査会報Ⅵ

金剛寺遺跡

1993年3月

河内長野市遺跡調査会

序　　文

河内長野市は自然と文化財に恵まれた豊かな町です。

この環境は人々をひきつけ、近年は府下で最も人口増加が著しい町となりました。このため、生活環境の整備のため多くの都市型開発が進められました。

この恵まれた環境を求めて人々が移り住んできますと、今度は逆に、受け入れるための整備のために文化財や自然が破壊される危険が増大してきます。

地下に眠る埋蔵文化財は自然と共に真っ先に危機に立たされます。このような状況で、市教育委員会は開発に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施し、把握に努めています。

今後とも市民の皆様の協力により、国民共有の財産である埋蔵文化財の保護に努めたい所存です。

最後になりましたが、調査に協力していただきました地主の方々、施工者の皆様方に記して感謝いたします。

河内長野市教育委員会
教育長 中尾謙二

例　　言

1．本報告書は平成4年度に河内長野市遺跡調査会が大阪府から委託を受けた金剛寺遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査は本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦、鳥羽正剛を担当者として実施した。
3．調査にかかる事務は調査会事務局長浦野巌、松垣孝康が主担した。
4．本書の執筆は鳥羽正剛が行った。
5．編集は尾谷の指導のもと鳥羽が担当し、本書の文責は鳥羽が負うものである。
6．発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。
　鈴木奈緒美・阿部園子・喜多順子・久保八重子・中西和子・中野雅美・杉本祐子・枡本裕子・牟田口京子・坂東正法・松尾和代
7．調査の実施に関しては下記の方々の協力を得た。
　天野山金剛寺・河内長野市環境経済部商工観光課・河内長野市建設部施設課
8．本調査の記録はスライドフィルム等でも記録しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡　　例

1．本報告書に記載されている標高はＴＰを基準としている。

2．土色は新版標準土色帳による。

3．平面測量基準は国家座標第Ⅵ系による５ｍメッシュを基に実施したものである。

4．図中の北は座標北である。

5．本書の遺構名は下記の略記号をもちいた。

ＳＣ…炉　　ＳＫ…土抗　　Ｐ…ピット

ＳＤ…溝　　ＳＮ…石組遺構

6．文中で出土遺物として列記したものの内、番号の無いものは細片のため実測していないものである。

目　　次

序文
例言
凡例
Ⅰ．はじめに …… 3
Ⅱ．位置と環境 …… 3
Ⅲ．調査に至る経過 …… 3
Ⅳ．調査の結果 …… 4
　1．金剛寺遺跡　ＫＧＴ92－１ …… 4
　2．金剛寺遺跡　ＫＧＴ92－２ …… 8

挿図目次

金剛寺遺跡　ＫＧＴ92－１

第１図　河内長野市遺跡分布図 …… 1
第２図　調査地位置図（1/5000） …… 4
第３図　遺構配置図（1/200） …… 4
第４図　調査区土層断面図（1/80） …… 5
第５図　ＳＫ－３　ＳＤ－１　出土遺物実測図 …… 5
第６図　包含層出土遺物実測図 …… 6

金剛寺遺跡　ＫＧＴ92－２

第７図　遺構配置図 …… 8
第８図　調査区土層断面図（1/60） …… 9
第９図　ＳＫ－２遺物出土状況図（1/40） …… 10
第10図　ＳＫ－６遺物出土状況図（1/40） …… 10
第11図　ＳＫ－７遺物出土状況図（1/40） …… 10
第12図　各遺構出土遺物実測図(1) …… 11
第13図　〃　(2) …… 12
第14図　包含層出土遺物実測図 …… 13

表　目　次

第１表　河内長野市遺跡地名表

図版目次

金剛寺遺跡　ＫＧＴ92－１

図版１　遺構　調査区全景（南から）、（北から）

図版２　遺物　ＳＤ－１（１・４・５）、ＳＫ－３（２・３・７）、包含層（９・11～21）

金剛寺遺跡　ＫＧＴ92－２

図版３　遺構　調査区全景（北から）、ＳＫ－２遺物出土状況

図版４　遺構　ＳＫ－６遺物出土状況、ＳＫ－７遺物出土状況

図版５　遺物　ＳＤ－１（４・５）、ＳＤ－２（15）、ＳＤ－３（２）、ＳＫ－１（13）、ＳＫ－２（３・12）、ＳＫ－６（１・８・11・14・16）、ＳＫ－７（６・10）

図版６　遺物　ＳＤ－２（27）、ＳＤ－４（18・22）、ＳＫ－５（７・９・24～26・28）、ＳＫ－６（17・19・21・23）、ＳＫ－７（20）、包含層（29～33）

第１図　河内長野市遺跡分布図

第１表　〈河内長野市遺跡地名表〉

番号	遺　跡　名	時　　代	番号	遺　跡　名	時　　代
1	鳴尾遺跡	弥生時代・中世	47	尾崎北遺跡	古墳時代後期
2	塩谷遺跡	弥生時代～中世	48	尾崎遺跡	古墳時代～中世
3	小山田１号古墓	奈良時代	49	加賀田神社遺跡	中　　世
4	小山田２号古墓	奈良時代	50	ジョウノマエ遺跡	中　　世
5	菱子尻遺跡	縄文時代～中世	51	庚申堂	中　　世
6	千代田神社遺跡	中　　世	52	栗山遺跡	中　　世
7	市町東遺跡	弥生時代・中世	53	寺元遺跡	奈良時代～平安時代
8	寺ケ池遺跡	旧石器時代～縄文時代	54	観心寺	平安時代～
9	住吉元宮遺跡	中　　世	55	延命寺	
10	西之山町遺跡	中　　世	56	川上神社遺跡	中　　世
11	野作遺跡	中　　世	57	金剛寺	平安時代～
12	西代神社遺跡	中　　世	58	日の谷城跡	中　　世
	本多藩陣屋跡	飛鳥・藤原時代・近世	59	汐の山城跡	中　　世
13	古野町遺跡	中　　世	60	峰山城跡	中　　世
14	膳所藩陣屋跡	近　　世	61	日野観音寺遺跡	中　　世
15	向野遺跡	縄文時代～中世	62	岩立城	中　　世
16	双子塚古墳伝承地	古墳時代	63	仁王山城	中　　世
17	五の木古墳跡	古墳時代後期	64	タコラ城	中　　世
18	法師塚古墳伝承地	古墳時代	65	国見城跡	中　　世
19	長野神社遺跡	中　　世	66	稲荷山城跡	中　　世
20	青ケ原神社遺跡	中　　世	67	旗蔵城跡	中　　世
21	長池窯跡群	平安時代～近世	68	大江家	中　　世
22	伝「仲哀廟」		69	石仏城跡	中　　世
23	上原近世瓦窯	江戸時代	70	左近城跡	中　　世
24	上原北遺跡		71	清水遺跡	中　　世
25	上原中遺跡	古墳時代・中世	72	薬師寺	
26	塚穴古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世	73	千早口駅南遺跡	中　　世
27	大日寺遺跡	中　　世	74	地蔵寺	近　　世
28	河合寺城跡	中　　世	75	旗尾城跡	中　　世
	末広窯跡	中　　世	76	葛城第18経塚	近　　世
29	河合寺	中　世　～	77	天見駅北方遺跡	中　　世
30	福田家	近　　世	78	葛城第16経塚	近　　世
31	烏帽子形古墳	古墳時代後期	79	薬師堂跡	中　　世
	烏帽子形城跡	中世～近世	80	流谷八幡神社遺跡	中　　世
	烏帽子形八幡宮	中　　世	81	小野塚	
32	喜多町遺跡	縄文時代～中世	82	蟹井淵北遺跡	中　　世
33	上田町遺跡	古墳時代	83	蟹井淵神社遺跡	中　　世
34	上田町窯跡	近　　世	84	蟹井淵南遺跡	中　　世
35	大師山遺跡	弥生時代後期～	85	清水阿弥陀堂跡	近　　世
	大師山古墳	古墳時代前期	86	権現城跡	中　　世
36	大師山南古墳	古墳時代後期	87	滝畑埋墓	近　　世
37	高向遺跡・高向南遺跡	縄文時代～中世	88	堂村地蔵堂跡	近　　世
38	高向神社遺跡	中　　世	89	天神社遺跡	中　　世
39	惣持寺跡	中　　世	90	中村阿弥陀堂跡	近　　世
40	野間里遺跡	奈良時代～平安時代	91	西の村阿弥陀堂跡	近　　世
41	宮山遺跡	縄文時代～平安時代	92	東の村観音堂跡	近　　世
42	宮山古墳	古墳時代後期	93	光滝寺	中　世　～
43	高木遺跡	縄文時代	94	葛城第15経塚	近　　世
44	三日市遺跡	旧石器時代～近世	95	岩湧寺	中　世　～
45	小塩遺跡	縄文時代～奈良時代	96	鳩原遺跡	中　　世
46	加塩遺跡	古墳時代後期	97	西浦遺跡	古墳時代

Ⅰ．はじめに

近年の地価の高騰は、比較的安価であった河内長野市の住宅開発に拍車をかける切っ掛けとなった。大規模な住宅開発は無くなってきたが、ミニ開発や集合住宅の建設が盛んとなった。

このような状況の中で、河内長野市は公共上下水道、アクセス道路、公園等の都市機能の整備などの充実に努めている。

しかし、このような公共関係の整備も一般の開発と同じように埋蔵文化財を避けて通ることはできず、教育委員会は文化財保護と開発の調査に力を注いできた。

公共事業に関連する埋蔵文化財の取扱いについては、前年度からの計画段階での保存協議を進めている。

Ⅱ．位置と環境

金剛寺遺跡は、行政区では和泉市との市境に近い河内長野市天野町に所在する遺跡であり、和泉山系岩湧山（ＴＰ＋897.7m）より北方に伸びる赤峯丘陵と河泉丘陵に分岐する谷状地に位置する。遺跡の中心は、国指定史跡「金剛寺境内」となっており、今回の発掘調査は史跡内で実施したものである。

調査地は、天野山の西側斜面と岩湧山系を水脈とする西除川東岸との間の平坦地に位置し、現在は天野公園内の歩道（ＫＧＴ92－１）と金剛寺東側を走る国道170号線の西側の歩道（ＫＧＴ92－２）となっている。

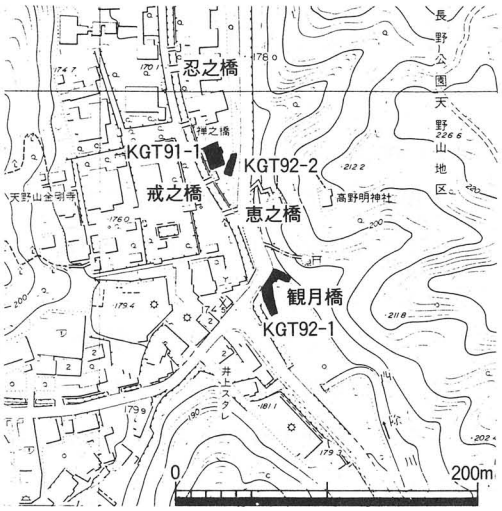
Ⅲ．調査に至る経過

当調査は、大阪府富田林土木事務所による国道170号線歩道設置計画に伴い実施した。平成３年８月３日に原因者から史跡現状変更許可申請書が提出され、その後、文化庁、大阪府との協議の結果、事前に発掘調査が必要となり、その旨を原因者に通知した。調査については、河内長野市教育委員会に調査依頼があり、河内長野市遺跡調査会が委託を受けた。

調査地は２地区に分かれるため、一次調査区（ＫＧＴ92－１）を平成４年４月２日から同年４月23日まで、二次調査区（ＫＧＴ92－２）を同年10月１日から同年10月22日にかけて実施した。

Ⅳ. 調査の結果

1．金剛寺遺跡　ＫＧＴ92－１



第２図　調査地位置図（1/5000）

遺構面は撹乱土の表土（層厚約20㎝）、旧表土（同約20㎝）、オリーブ褐色粗砂（同約20㎝）、にぶい黄褐色細砂（同約20㎝）、黄橙色細砂（同約20㎝）、にぶい黄色極細砂（同約20㎝）を順に除去すると検出された。地山は黄褐色礫混り細砂であった。

遺構

検出された遺構は溝状遺構、土坑、ピットであった。

〔溝状遺構〕

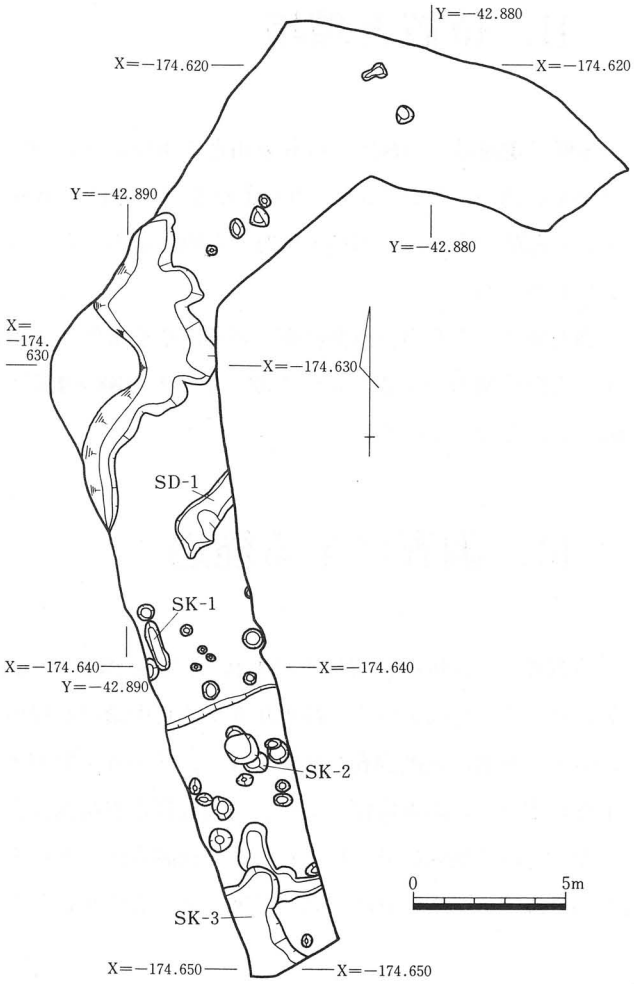
ＳＤ－１は検出長2.6ｍで、幅は最大1.4ｍ、最小0.9ｍを測り、深さは東側0.1ｍ、西側0.13ｍである。

〔土坑〕

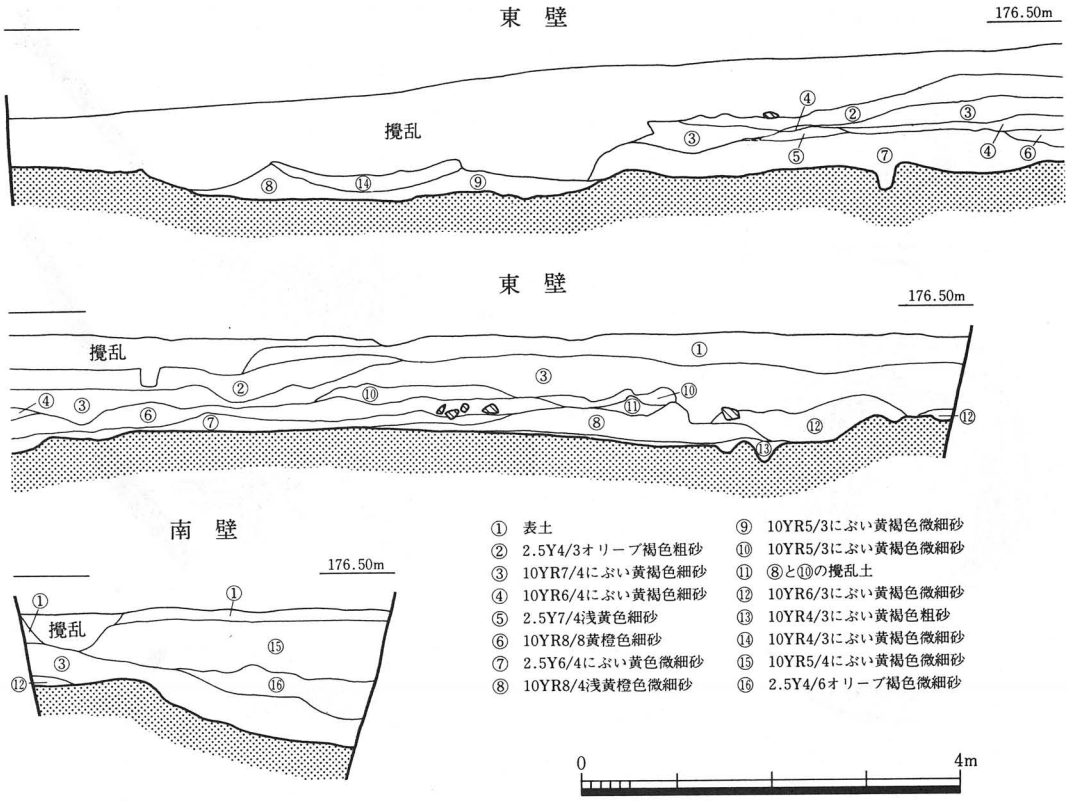
ＳＫ－１は長軸1.7ｍ、短軸0.6ｍ、深さ0.21ｍを測る。ＳＫ－２は北西部が切られているため、正確な平面形は確認できない。遺構の規模は南北検出長0.8ｍ、東西0.75ｍで、深さ0.23ｍを測る。ＳＫ－３は調査区の最南部に位置する。遺構の規模は南北検出長3.5ｍ、東西検出長1.9ｍで、深さは北端0.19ｍ、南端0.56ｍを測る。

遺物

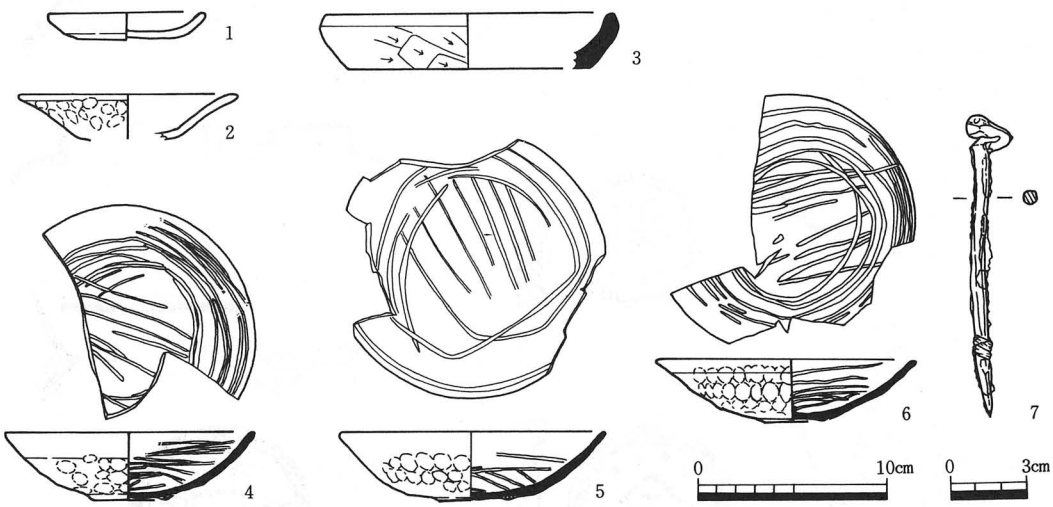
出土傾向としては遺構検出数に比して遺構に伴う遺物は少なく、大部分の遺物が包含層からであった。また、この包含層からの瓦の出土量も僅少であったことも特徴として挙げられる。



第３図　遺構配置図（1/250）



第４図　調査区土層断面図（1/80）



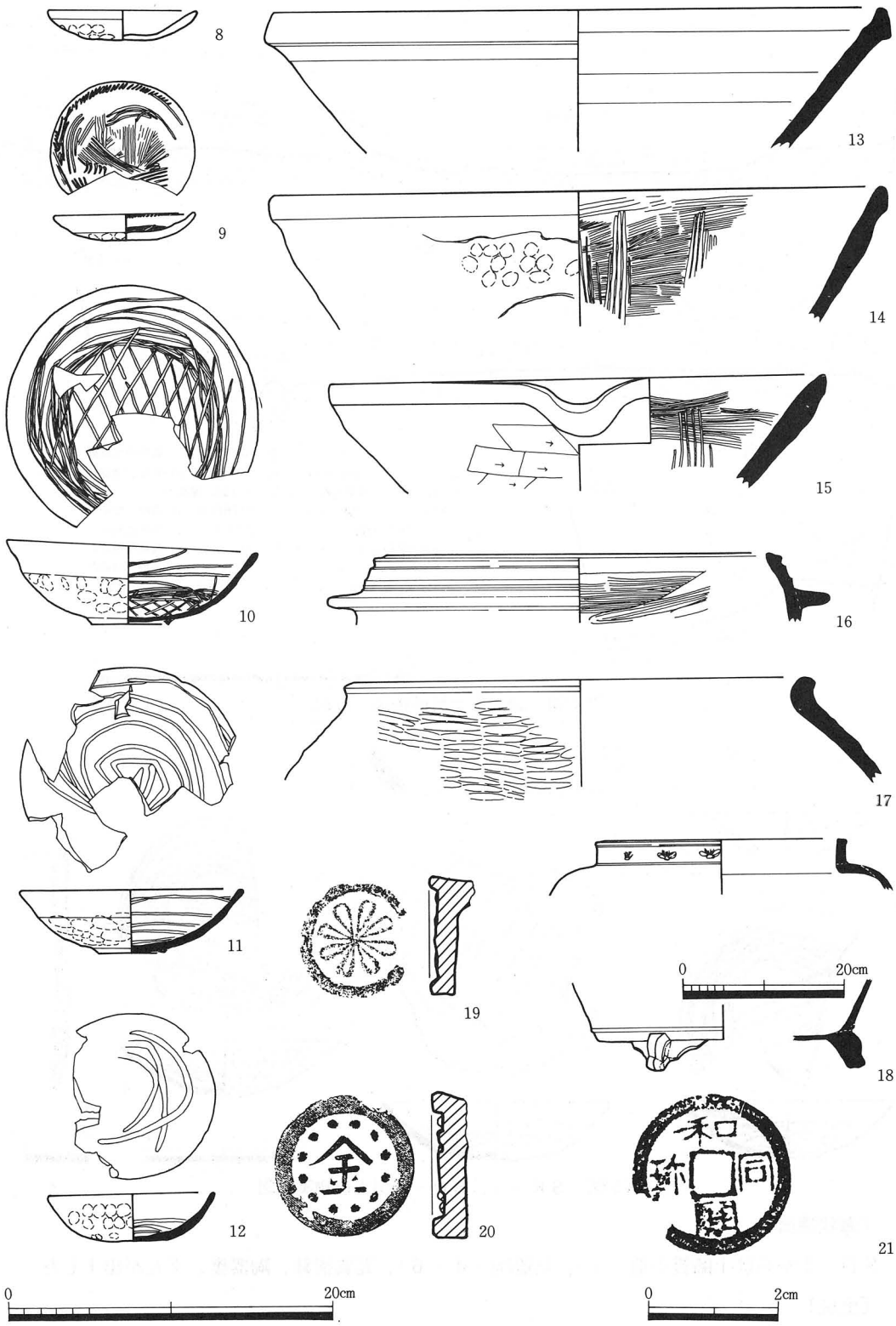
第５図　ＳＫ－３、ＳＤ－１出土遺物実測図

〔溝状遺構〕

ＳＤ－１からは土師質小皿（１）、瓦器埦（４～６）、瓦質摺鉢、陶器甕、平瓦が出土した。

〔土坑〕

ＳＫ－１からは土師質小皿が出土し、ＳＫ－２からは土師質皿、瓦器埦が出土したが、いずれ



第6図　包含層出土遺物実測図

も細片のため図示できなかった。ＳＫ－３からは土師質皿（２）、須恵質鉢（３）、瓦器埦、瓦質摺鉢、陶器甕、平瓦、鉄釘（７）が出土した。

〔包含層〕

包含層からの土器には土師質小皿（８・９）、瓦器埦（10～12）、須恵質鉢（13）、瓦質摺鉢（14・15）、瓦質羽釜（16）、瓦質甕（17）、瓦質風炉（18）、備前焼甕、唐津焼鉢が出土した。瓦では軒丸瓦（19・20）、丸瓦、平瓦が出土し、（20）は金剛寺の「金」の字を配する文字瓦として特筆すべきである。また、鉄製品では鉄釘、銅製品では（21）の和同開珎（初鋳708年）が出土した。和同開珎の出土は西除川東岸に奈良時代の遺構が存在する可能性を問題提起する資料として重要である。

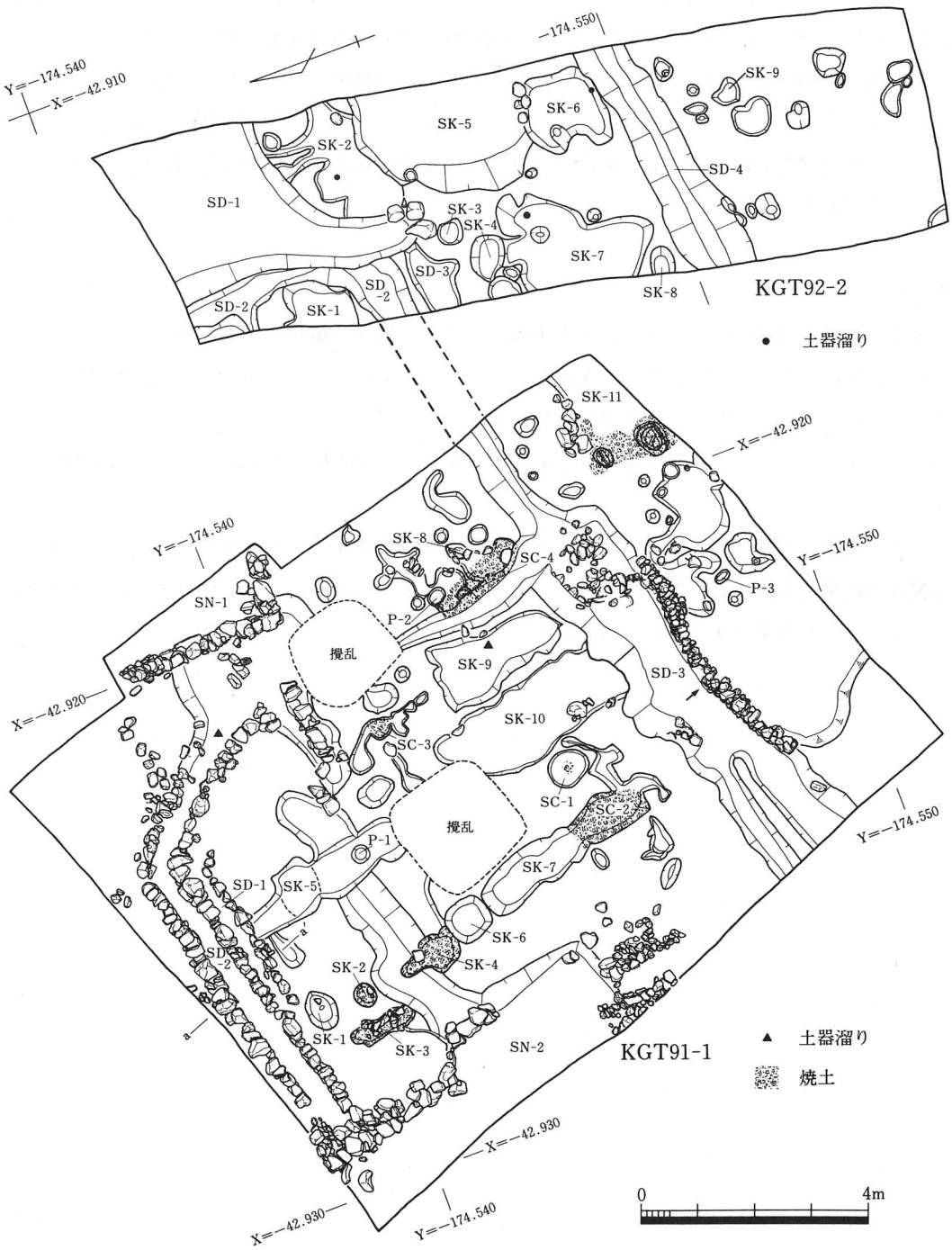
まとめ

調査の結果、遺構の出土遺物には尾上実氏の和泉型瓦器埦の編年によるとⅢ－３～Ⅳ－１、すなわち13世紀後半から14世紀初めの遺物と、本書には掲載していないが近世の陶磁器が出土した。また包含層からは奈良時代から近世の遺物が出土した。

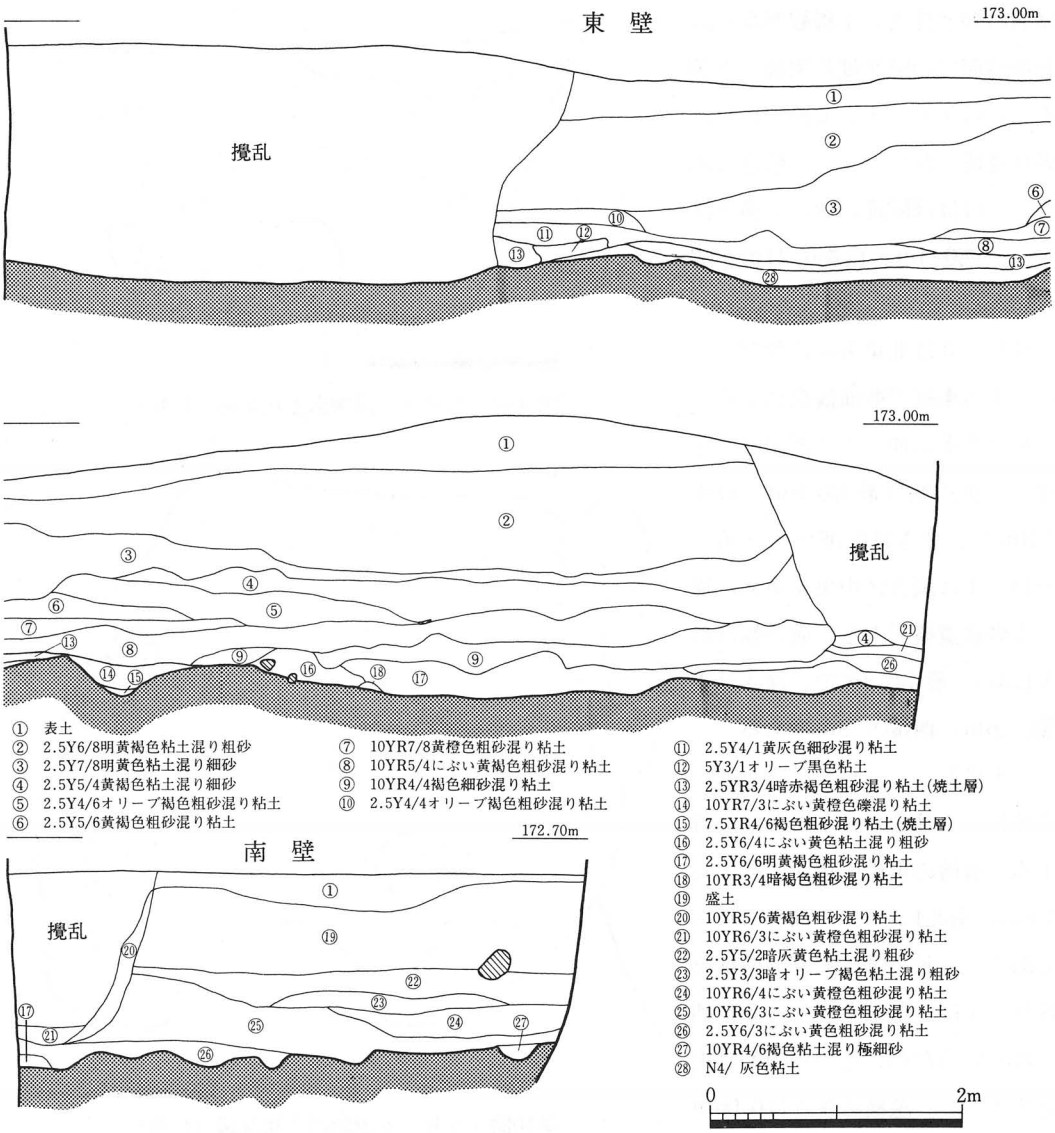
遺構の中には、ピットの可能性のあるものが存在したが調査区が限られているため建物の復元はできなかった。

以上の結果、遺構は調査区の南半分、すなわち西除川の東岸沿いの平坦面に密集しており、発掘調査の結果と金剛寺蔵の境内図にみられる境内の様子からさらに南方に伸びる谷筋にも遺構が存在することを再確認する資料が得られた。

2．金剛寺遺跡　ＫＧＴ92－２



第７図　遺構配置図(1/120)



第８図　調査区土層断面図（1/60）

遺構面は表土（層厚約30㎝）、明黄褐色粘土混じり細砂（同約40㎝）、明黄褐色粘土混じり細砂（同約40㎝）、明黄褐色粘土（同約80㎝）、にぶい黄褐色粗砂混じり粘土（同約20㎝）、オリーブ黒色粘質土（同約20㎝）を順に除去すると検出された。暗赤褐色粗砂混り粘土は火災により形成された焼土層であり、地山は黄褐色粘土混じり細砂であった。

遺構

検出された遺構は溝状遺構、土坑、ピットであった。

〔溝状遺構〕

ＳＤ－１は南端に護岸のためと考えられる人頭大の石が設けられている。北東部に向かって開く幅は検出最大幅3.5m、最小幅0.7mである。ＳＤ－２はＳＤ－１により東部を欠き、溝の南端

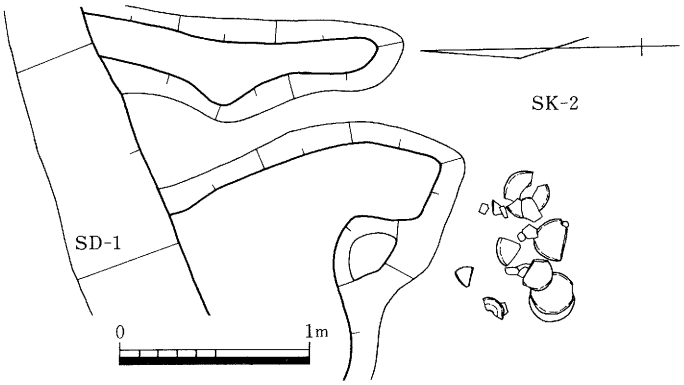
は溝の幅と深さ、土層観察から調査地西側での91年度に実施した調査（ＫＧＴ91－１）で検出された溝状遺構（ＳＤ－３）の続きであることはほぼ間違いない。溝の深さは北端0.3m、南端0.24mを測る。

ＳＤ－３は北東方向に伸び、ＳＤ－１の東縁で断面観察により、さらに北東に伸びることが確認された。溝の幅は最大0.9m、最小0.3mで、深さは0.08mである。ＳＤ－４は調査区中央を東北に横切る溝状遺構である。溝の幅は最大1.3m、最小0.8mで、深さは東端0.26m、西端0.28mである。

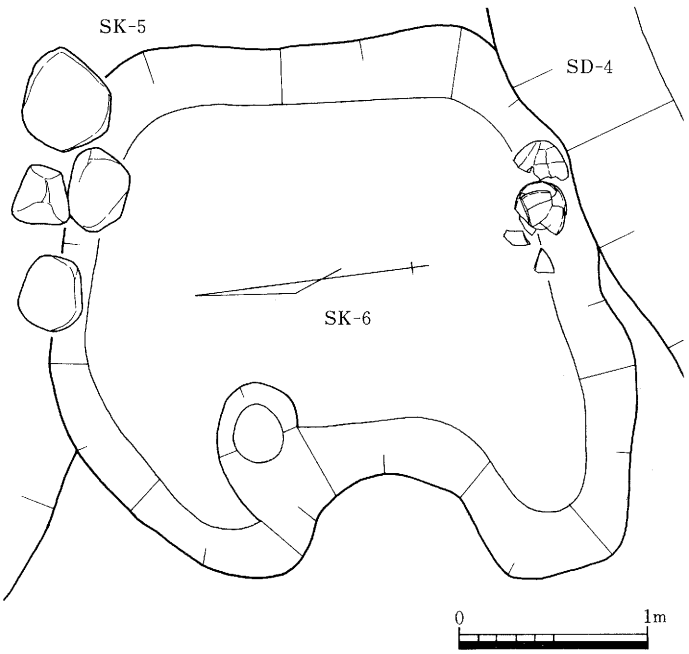
〔土坑〕

ＳＫ－１はＳＤ－１の西に位置する。遺構の規模は東西の検出長0.8m、南北1.3mで、深さ0.11mである。ＳＫ－２は北部と西部をＳＤ－１に、南部をＳＫ－５に切られているため、その平面形は復元できない。遺構の深さは0.05mで、遺構内の●印地点では土師質小皿、瓦器埦(第７図)が投棄されたと思われる状態で出土した。ＳＫ－３はＳＤ－１の南に位置し、遺構の規模は南北0.45m、東検出長0.5mで、深さは0.15mを測る。ＳＫ－４はＳＤ－３の南に位置する。遺構の規模は南北0.6m、東西0.9m、深さは0.14mを測る。

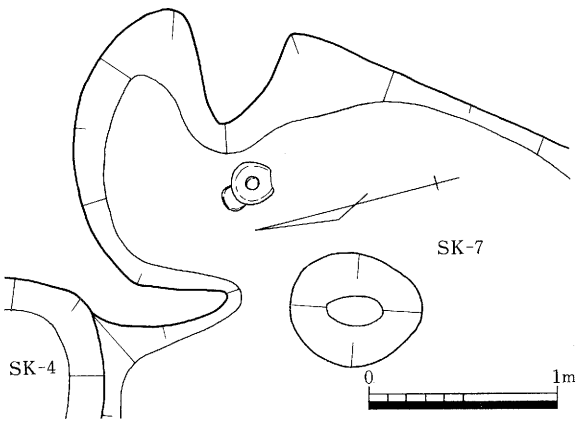
ＳＫ－５はＳＫ－２の南に位置



第９図　ＳＫ－２遺物出土状況図（1/40）



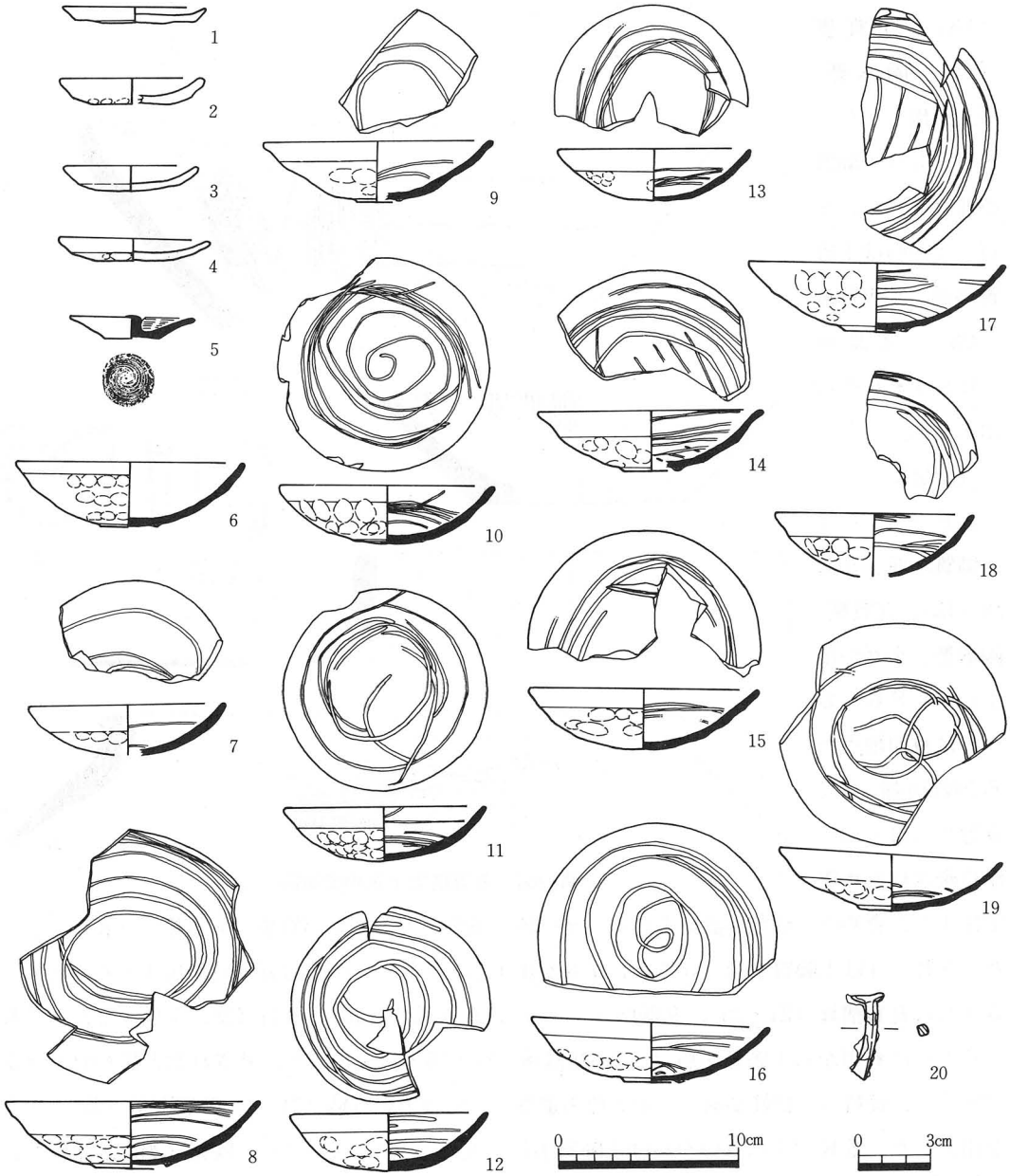
第10図　ＳＫ－６遺物出土状況図（1/40）



第11図　ＳＫ－７遺物出土状況図（1/40）

する。遺構の規模は南北検出長3.0m、東西検出長2.0mで、深さは0.3mを測る。ＳＫ－６はＳＫ－５の南に位置する。遺構の規模は南北1.7m、東西1.5mで、深さは0.15mを測る。北端にはこぶし大の石が伴い、●印からは、土師質小皿、瓦器埦が集中して出土した。ＳＫ－７はＳＫ－４の南に位置する。遺構の規模は南北2.8m、東西検出長1.8mで、深さは0.21mを測る。遺構内の●印からは土師質小皿、瓦器埦が出土した。ＳＫ－８は、ＳＫ－７の南に位置する。遺構の規模は南北0.4m、東西検出長0.45mで、深さ0.15mを測る。ＳＫ－９はＳＤ－４の南に位置する。遺構の規模は、南北0.5m、同じく東西0.5mで、深さ0.1mである。

(第７図)



第12図　各遺構出土遺物実測図（１）

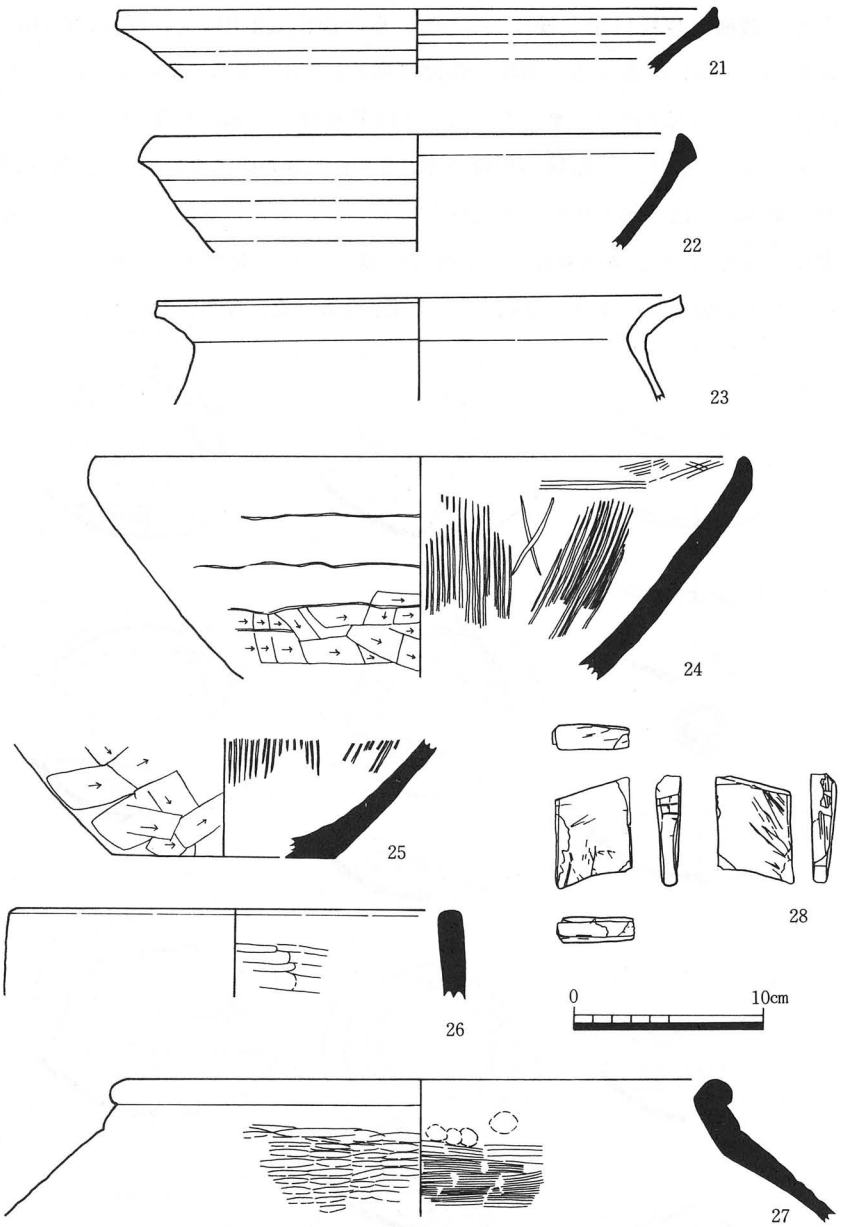
遺物

〔溝状遺構〕

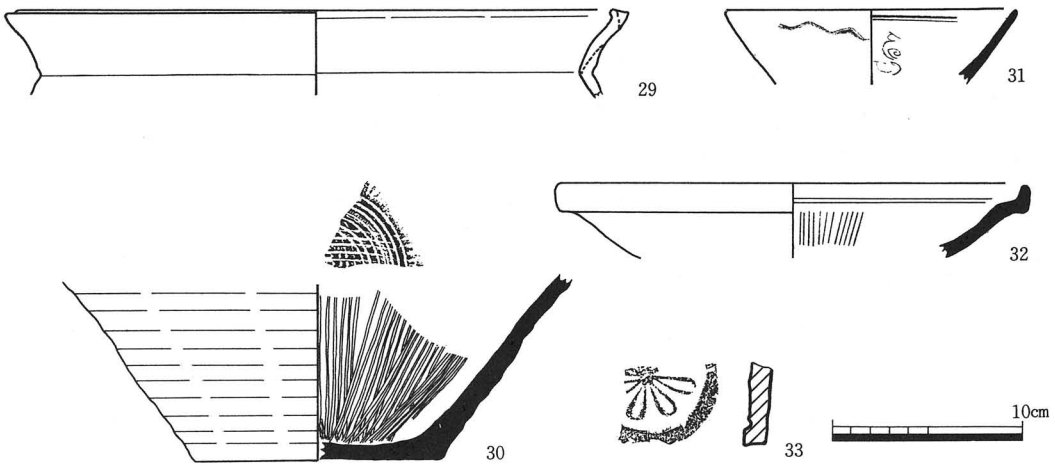
ＳＤ－１からは陶器蓋（５）が出土し、ＳＤ－２からは土師質小皿（４）、瓦器埦（15）、瓦質甕（27）、陶器甕、平瓦が出土した。ＳＤ－３は土師質小皿（２）が、ＳＤ－４からは土師質小皿、須恵質鉢（22）、瓦器埦（18）がそれぞれ出土した。

〔土坑〕

ＳＫ－１からは土師質小皿、瓦器埦（13）、瓦質甕、陶器甕、平瓦が出土した。ＳＫ－２からは●印地点から土師質小皿（３）、瓦器埦（11・12）が投棄された状態で出土し、資料の一括性が認められる。その他の遺物としては土師質甕、陶器甕、平瓦が出土した。ＳＫ－３は土師質小皿、瓦器埦、平瓦が出土し、ＳＫ－４からは瓦器埦が出土した。ＳＫ－５からは瓦質摺鉢（24・25）、瓦器埦（７・９）、瓦質風炉（26）、砥石（28）が出土した。ＳＫ－６からは●印から土師質小皿（１）、瓦器埦（14・16・17・19）が投棄されたと思われる状況で出土し、資料の一括性が高い。その他の遺物としては須恵質鉢（21）、土師質羽釜（23）、平瓦が出土した。ＳＫ－７は●印からは土師質小皿、瓦器埦（６・８・10）、鉄釘（20）が出土し、その他に須恵質鉢、瓦質風炉が出土した。ＳＫ－８からは瓦器埦が出土し、ＳＫ－９からも、小



第13図　各遺構出土遺物実測図（２）



第14図　包含層出土遺物実測図

師質小皿が出土したが、細片のため図示できなかった。

〔包含層〕

包含層からの遺物には紀伊型土師質羽釜（29）、須恵質鉢、瓦器埦、瓦質風炉、龍泉窯系青磁碗（31）、青磁鉢（32）、陶器摺鉢（30）、軒丸瓦（33）、丸瓦、平瓦が出土した。

まとめ

調査の結果、検出遺構は尾上実氏の和泉型瓦器埦の編年によるとⅢ－３からⅣ－４、すなわち13世紀後半から14世紀後半のものと考えられる。本調査区の西側近接地で実施したＫＧＴ91－１の調査の結果釜屋の跡と見られる遺構を検出した。本調査区は同敷地内にあり、ＳＤ－２がＫＧＴ91－１のＳＤ３と連続することから釜屋の一部を構成する遺構と考えられる。

検出した焼土層の形成時期についての史料は、金剛寺の僧禅恵（1283－1364）の奥書がある。正平十五年（1360）に記したものには、幕府畠山の軍勢が境内に乱入して約30余坊の塔頭と大門を焼失したことを伝えている。この災害の跡と考えられるのが検出した焼土層である。層中の遺物と尾上氏の和泉型瓦器埦の編年時期が合致することから、焼土層の形成要因が歴史的事実として確認できた。

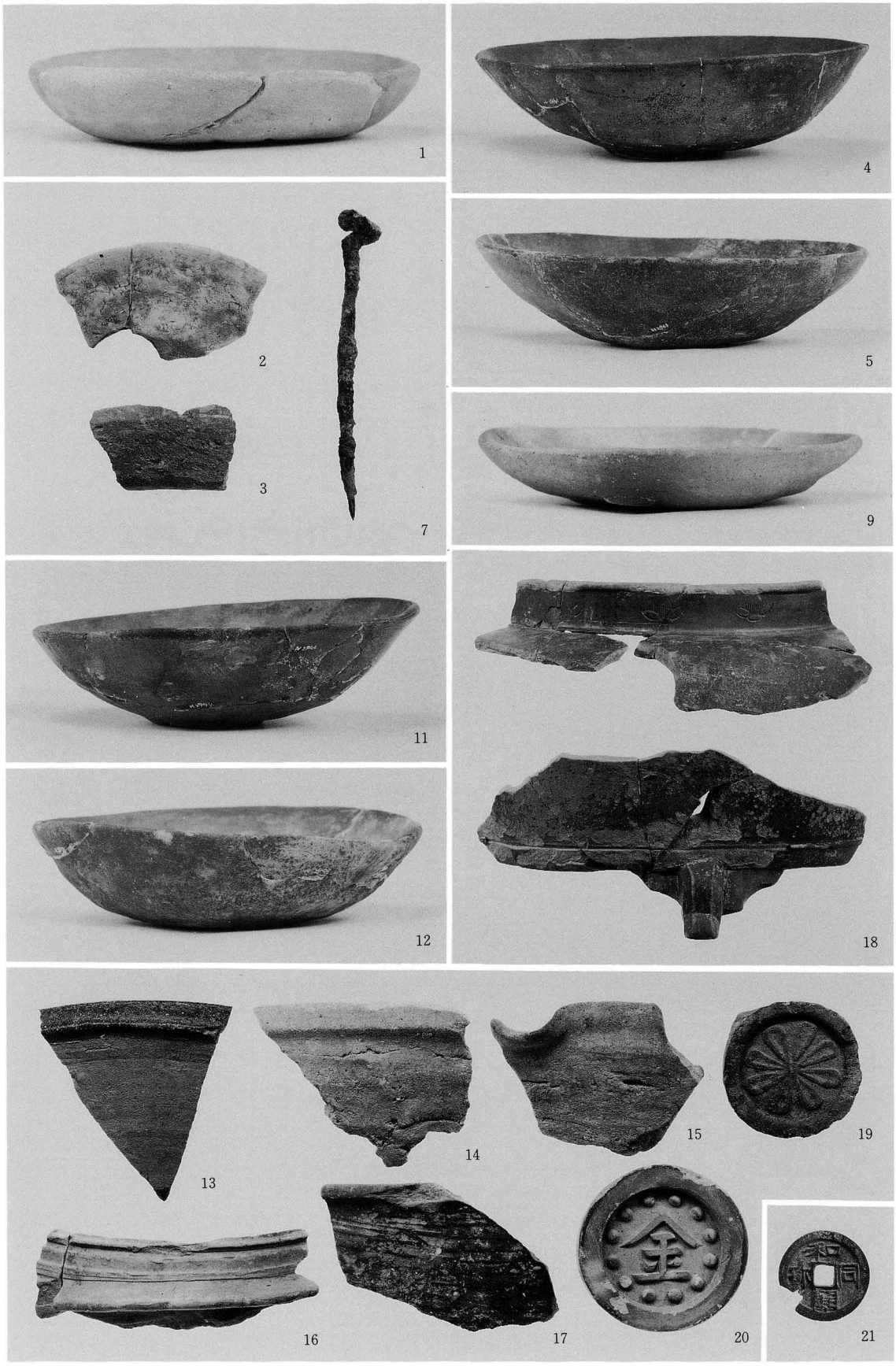
図　　版

図版1　遺構　金剛寺遺跡（KGT92－1）

調査区全景（南から）

調査区全景（北から）

図版2　遺物　金剛寺遺跡（KGT92－1）



SD－1（1・4・5）、SK－3（2・3・7）、包含層（9・11～21）

図版3　遺構　金剛寺遺跡（KGT92－2）

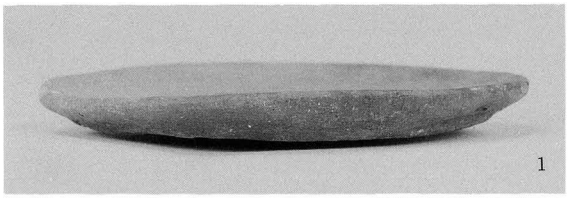
調査区全景（北から）

ＳＫ－２　遺物出土状況

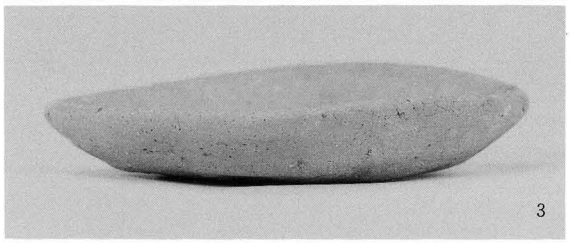
SK－6　遺物出土状況

SK－7　遺物出土状況

図版5　遺物　金剛寺遺跡（KGT92－2）


1

2


3

4

5

6

8

10

11

12

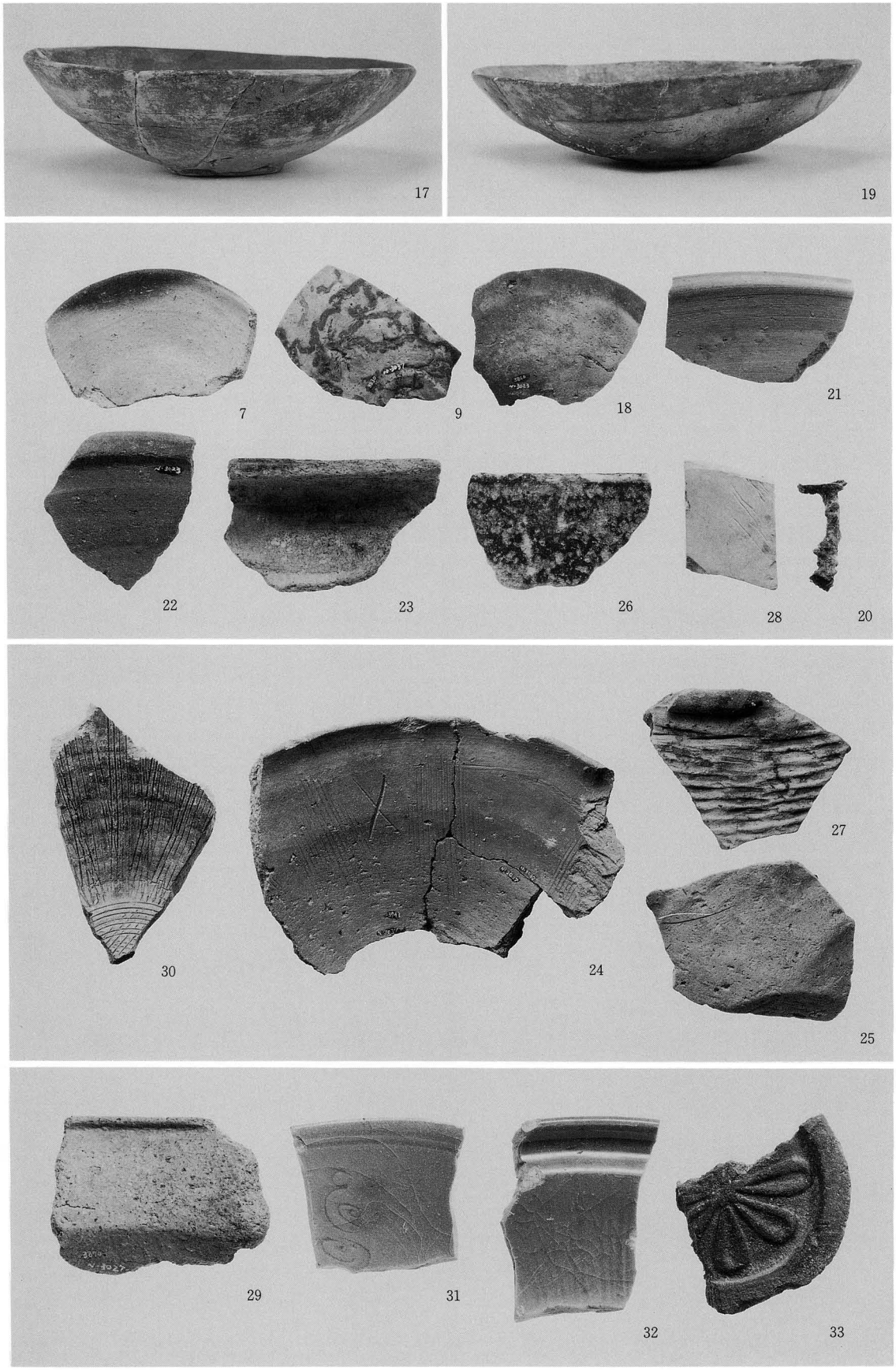
13

14

15

16

SD－1（4・5）、SD－2（15）、SD－3（2）、SK－1（13）、SK－2（3・12）、SK－6（1・8・11・14・16）、SK－7（6・10）



SD－2（27）、SD－4（18・22）、SK－5（7・9・24～26・28）、SK－6（17・19・21・23）、SK－7（20）、包含層（29～33）

河内長野市遺跡調査会報Ⅵ

1993年3月

発行　河内長野市遺跡調査会
河内長野市原町396－3

印刷　（株）中島弘文堂印刷所